

株式会社 片貝製作所

DX宣言書

2025年7月31日
株式会社 片貝製作所
代表取締役社長 遠藤 隆幸

□ 経営理念

ものづくりを通してお客様に満足を提供し、従業員の幸せを確立する

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 伝統の技とデジタル技術を融合し、現場の力を最大限に引き出すことで、やりがいと誇りを持てる「人が主役」のモノづくりを実現します
- ◆ 組織の柔軟性を高め、変化に強い生産体制を築き、新潟県内ナンバーワンの鑄造メーカーを目指します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2026年6月)

戦略 「情報共有基盤づくり」

- 施策
- ・ 現場の状況をすぐに把握できるようにするため、作業日報を電子化するとともに情報を整理・集約するための仕組みを構築
 - ・ 情報伝達の確実性を高め、円滑な連携を実現するため、クラウドツール等を活用して情報共有環境を整備
 - ・ 正確に作業できる現場づくりに向けて、工程毎の作業手順を動画で可視化したマニュアルを整備
 - ・ DXに従業員主体で取り組む文化を根付かせるため、現場メンバーを含むDX推進チームを立ち上げ

➤ フェーズ2(2026年7月 ～ 2027年12月)

戦略 「業務プロセスの最適化と標準化」

- 施策
- ・ 業務の標準化とノウハウの体系化のため、製造レシピのデジタル化を推進
 - ・ IoT機器を活用して生産実績・履歴データを自動収集し、トレーサビリティと品質管理の精度を向上
 - ・ 設備稼働データと作業日報を統合し、作業者・工程・状況の見える化をするとともに、蓄積データを活用した継続的なプロセス改善を実施
 - ・ 原価シミュレーションのデジタル化により、収益性を正確に把握できる仕組みを整備し、迅速かつ柔軟な経営判断を支える管理体制を構築

➤ フェーズ3(2028年1月 ～ 2029年6月)

戦略 「データ活用による自動化と生産体制の高度化」

- 施策
- ・ デジタル化した製造レシピを活用し、原材料の自動投入を可能にする等、生産工程の自動化・効率化を進めることで、品質と再現性に優れた生産体制を実現
 - ・ 製造設備の異常や停止に対する早期復旧対応を可能にするため、稼働状況をリアルタイムで把握できる環境を整備し、スマートファクトリー化を推進
 - ・ 生産から在庫管理まで一元化し、計画や在庫管理の精度を高め、スムーズで安定した現場運営を実現
 - ・ 製造条件や不良傾向等の蓄積されたデータを活用し、原価予測や品質に関する予兆管理を可能にする仕組みを整備

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・ 作業手順の動画マニュアル率 : 主要作業の50%(～2026年6月)
- ・ 製造レシピデジタル化 : 完了(～2027年12月)
- ・ ミス発生件数 : ゼロ件達成(3ヶ月連続)